

【取扱い厳重注意】

348
&
349

平成23年11月30日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 松本 朗

平成23年11月6日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

東京電力福島第一原子力発電所長 吉田 昌郎

2 聴取日時

平成23年11月6日午前11時00分から同日午後4時20分まで
(休憩あり。午後1時00分から午後1時30分、午後3時10分から午後3時20分まで)

3 聴取場所

福島県双葉郡楡葉町大字山田岡字美シ森8番

J-VILLAGE JFAアカデミー福島男子寮2階ミーティングルームA

4 聴取者

加藤経将、松本朗、岡田祐樹

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

事故時の状況とその対応について
別紙のとおり

第3 特記事項

特になし

以上

【取扱い厳重注意】

○質問者 夏にヒアリングをやらせていただいております、8月のころには私は後から赴任したんですが、主に津波とかアクシデントマネジメントの方をいろいろ調べさせていただいております、既に津波の関係につきましては、土木調査グループの皆様、また、現在、[]をされておいでの[]さん、また[]さんからもお話を伺おうと思っております。また、武藤さんからもお話を伺いました。当時、所長は設備管理部長をされておいでだったということもありまして、そのころのことを、まずは今日、津波のことを伺いまして、更に、津波から少し引きまして、自然災害から原子力施設をどう守るかという備えなどの状況について、更に伺わせていただくというふうな運びで考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

早速ですけれども、津波の方からですね。加藤が夏にお話を伺いましたときに、少し気持ちなどを伺っているんですけれども、改めて、東電からいろいろエビデンスをお出しいただいておりますので、それを踏まえながら、再度確認させていただくというふうに進めさせていただこうと思っております。

まず、少し前の話になるということもありましたので、この津波の関係の動きが起ってくるのが平成20年ころからということで、こういうものを準備させていただきました。この赤印は、平成22年6月まで、武黒さん、武藤さん、吉田さんという体制だったということで、矢印を引かせていただいております。まず最初に、所長におかれまして、設備管理部長のころに、福島原発における津波の話とか、問題を初めて聞かれたのはいつごろですか。

○吉田所長 まず、地震・津波に関して、私自身がもともと機械屋ですから、地震のメカニズムとか、そういうところはそんなに詳しくなかった。

○質問者 私も勿論そうで、いろいろ勉強させていただいております。

○吉田所長 私はどちらかというずっとメンテナンス関係とか、発電の方の、運転しているプラントの面倒を見ておったものですから、建設関係のお仕事は本当に久しぶりだったんですね。それが、平成19年4月1日に原子力設備管理部長と。そのとき、原子力設備管理部というのが初めてできまして、本店の組織を分けて、もともとの建設部が発展的に、運転しているプラントの大きい改造工事と一緒に見ましようということで、設備管理部ができて、そこの初代の部長で平成19年4月1日に赴任しました。

○質問者 御経歴のことは前回、加藤の方で伺わせていただきましたが、念のために確認をさせていただきます。19年4月1日でございますね。わかりました。

○吉田所長 そのときに久しぶりに建設を見て、建築屋、土木屋が部下にいるわけで、今まで、建築屋、土木屋と余り親しくつき合ったことがないのが部下になって、余り得意ではなかったものですから、その辺の経緯だとかは、引き継ぎも含めて話は聞いていたということなんです。いずれにしても、その時点で、余り地震・津波に対して関心が高いということにはなかったんです。なかったというのは、会社全体としてもそうですし、世間全体としてもそうだったんです。

【取扱い厳重注意】

一番大きかったのは、7月16日中越沖地震が生まれて、結局、あれは想定している地震動の何倍という地震が来たということで、これはまさに私どもの原子力施設管理部で対応しないといけないということで、耐震センターというものを、その年の11月でしたか、つくって、もともといた建築屋、土木屋、それから機械屋も含めまして、地震の、主として、まずは新潟の復旧だとか、調査だとか、対応を重点的にしていたというところがございます。

当然、そのときに同じようなことが、要するに、想定を上回るような地震が来る可能性はオールジャパンドこでも、もう一度見直さないといけないという動きをやりまして、それで、今まで考えた地震動が妥当かどうかという調査に入ったわけです。そういう中で、まず、福島第一につきましては、双葉断層ですとか、近辺の断層をもう一度調査する、それから、海域の調査、海の中の地面の調査をするだとか、そういうことを一生懸命していたということで、いずれにしても7月16日の中越沖地震以降です。

○質問者 19年ですね。

○吉田所長 平成19年7月16日以降、(地震を)極めて大きい、重要な課題としてとらえるようになったということがあります。ただ、そのときに2つありまして、地震動というのは、ものすごくそのときに話題になったわけです。要するに、今まで考えていた地震動より大きい地震が来るとすると、例えば、建物ですとか配管ですとか、機器の補強をしないといけないということになりますから、そちらの解析を重点的にやりましょう。当然、津波だとか、そういうのはあるんですけども、日本の体系上、地震の随件事象という位置づけですから、とりあえずは地震動を特定しないことには、津波について評価できないということで、大きく言うと、地震・津波については、ものすごい大きい関心事だったんですが、最初はやはり地震動が重点でした。

幸いにして柏崎の場合は日本海側ですので、地震動の議論をきちっとした中で、当然、津波の話もあったんですけども、大きい津波を発生させるようなメカニズムは、太平洋と違ひまして小さい、やはり津波の話は福島第一、第二だと。柏崎にかかり切りでしたから、最初の1年ぐらいは地震動一本槍みたいな姿でした。いつごろかは忘れちゃったけれども、20年の途中から、随件事象としての津波の話の話をきちっと評価していく必要があるという話が出てきたというのが私の記憶です。

○質問者 そこで、記憶を喚起していただく関係で、いろんな方々に伺っていきますと、最初に東電の社内において、福島、1Fにおける津波の話が出てきたのは、どうもこの辺りのようでございまして、その根拠が、所長、お目通しされているかどうかわからないんですけども、「福島第一・第二津波評価説明メモ」というものがございまして、20年6月10日に、所長、それから、武藤さん、■■■■さん、当時のセンター長などが入られて、土木の■■■■GMや■■■■さん、■■■■さんは今、GMされておられますけれども、■■■■さんなども入られて、福島での津波の話が上がった最初の時期のようだったんです。

どんな話が上がったかといいますと、これに先立つ平成14年7月に推本が「三陸沖か

【取扱い厳重注意】

ら房総沖にかけての地震活動の長期評価について」というものを出しました。その中で、要は、明治三陸の地震についてのモデルを参考にして、同様の地震が三陸沖北部から房総沖の海溝寄りの領域内のどこでも発生する可能性がありますよと、こういった話があって、それを踏まえて、20年6月に土木調査グループが話を上げる前にどういう前触れがあったかといいますと、中越沖前の平成18年から耐震設計審査指針の改定があって、耐震バックチェックの指示があった。

それが中越沖地震があったがゆえに、大臣からすぐ出せという、加速させるような話もありましたけれども、そのバックチェックの作業をしていく中で、津波もどうしようかということで、土木のグループが土木学会の先生方とかにいろいろ話を聞く中で、今村先生から、これは20年の2月の末ですけれども、福島県沖の海溝沿いで大地震が発生することは否定できないから、波源として考慮すべきだろうということで、推本の長期評価について、無視、捨てるというのは考えものだというふうな御示唆をいただいたということで、それを基に、土木学会の波源を基に計算してみたら、O.P.13だとか10とか、10mオーダーを超えるような結果が出た、これは上層部に話を上げなければということで、6月10日に頭出しがなされた。これは6と7と2つ〇をつけましたのは、6月に頭出しをしたところ、初めて話を聞くで、武藤さんからもいろいろ宿題が出て、その宿題返しが翌月の7月31日にやられたようでして、このときに宿題返しを踏まえて、武藤さんから、所長もいらっしゃったということなんですけれども、こういった方針でいこうかと決まったということのようなんですけれども、ここまで聞かれました、ああ大体そんな感じだったかなとか、何か。

○吉田所長 そうだと思いますよ。

○質問者 大体、御記憶ございますか。

○吉田所長 日時とかは別ですけれども、内容的にはそのような話です。

○質問者 わかりました。それで、まず最初に、6月に、■■■■GMや■■■■さんからの話なんですけど、いきなり招集をかけて、皆さんにお話を上げる前に、まず、当時の吉田部長に話を持っていったら、これは結構話が大きいから、みんなに聞いてもらった方がいいよということで、この流れということのようなんですけど、何かそのころの御記憶ございますか。

○吉田所長 先ほど言いましたように、もともと私もこの辺は不案内なものですから、■■■■だとか、特に■■■■が真面目な男なので、彼らの話をよく聞いていました。さっきも言いましたように、19年7月6日以降、土木屋、建築屋とはかなり密接につき合っていますので、まずは柏崎の話はあったんですが、20年になってから、日付は覚えていませんけれども、今村先生からそんな話が出ているだとか、状況の報告は適宜あったと思います。

○質問者 なるほど。こういった数字は、しょせん数字で、バーチャルな数字なんですけれども、こういった波高を初めて聞かれたのはいつごろですか。

○吉田所長 多分、この直前ぐらいだと思います。

○質問者 直前ぐらい。わかりました。これの説明で、1週間から2週間くらい前に所長

【取扱い厳重注意】

に御相談を差し上げて、そのときに、これはみんなで聞くわという話だったということなのですが、もっと前に聞いていなかったかなとか、大体そのころかなというのは。

○吉田所長 そのころだと思いますよ。

○質問者 そうですか。わかりました。

○吉田所長 これは議事的に残っているという話ではないんですけども、■■■■はたばこを吸うんですよ。私もたばこを吸うんですよ。そうすると、本店の2階にたばこ部屋があるんですけども、あそこでたばこを吸っているとよく会って、彼が寄ってきて、今、今村先生とこんな話をしているんですよとかいう話はしているわけです。ですから、コミュニケーションは、どういう状況になっているのというのは聞いておって、ただ、データが出てくるまでは、解析に時間がかかりますので、2月に今村さんの話があって、そこから解析をスタートしたとしたら、大体妥当かなと、4か月ぐらい、波源を持ってきて計算するという。

○質問者 では、流れとしまして、まず今村先生の話があって、こんなふうに今村先生が言っているんで、まず一回数字出してみますわ、じゃあ、やってくれるかと、こんな感じで始めた。

○吉田所長 そんな感じですよ。

○質問者 わかりました。そのときに、例えば、そんなどこでも起きるって何だその話とか、その辺りのやりとりはどんな感じでしたか。

○吉田所長 私の考えから言うと、勿論、原子力発電所の問題ではあるんですけども、津波自体、国とか、地方自治体がどうするんですかという話とも絡んでくるでしょう。東京電力だけがこれを対応してもしょうがない。しょうがないというか、発電所を守るという意味では当然必要なんですけども、オールジャパンで、太平洋側どこでも起きるといふんだったら、今の対策ではまずい、ちゃんとそこを含めて、どういう方針が出るのか、どうなんだよというような話をした記憶があります。

○質問者 そういう話があるというのは、なるほどわかったけれども、では、国や自治体は動いているのかと、国自体を動かすほどの話ではないのではないのと、そういう御趣旨ですか。

○吉田所長 はい。

○質問者 そこは、■■■■さんはどんなふうに。

○吉田所長 それはそうですよというか、要するに、福島第一、第二だけの話ではなくて、オールジャパンで、そもそも先生は原子力発電所に非常に注目しているんで、それはそれで構わない。やるのは構わない。それが妥当かどうかはちゃんと評価してくれ。ただ、それが妥当だとなったら、うちだけの話ではないから、それこそ推本に戻すなり、中央防災何とかでちゃんと方針決めるだとか、やらなければならないんじゃないか。解析することについてはいいけれども、それは本当に定説なのか、それで妥当なのかというのはちゃんと検証しておく必要があるよねと、こういう話をしていました。

【取扱い厳重注意】

○質問者 なるほど。わかりました。そうは言いながらも、解析するなら数字出してみてくださいということで、大体このころに上がってきた。初めてこの数字を聞かれたときに、どういう印象でしたか。

○吉田所長 それは、うわあですね。私などが入社したときに、最大津波はチリ津波と言われていたわけですから。さっきも言いましたけれども、地震・津波の地震動のデータをもらって、それに基づいて上の機械の設計する側ですから、条件としてもらってやる側ですから、条件をつくる側の仕事は今まで一回もしていないですから、その辺の目分量というか、感覚がわからないですよ。だから、■■■と■■■の話を丁寧に聞いていたという状況なんです。

○質問者 武藤さんも含めて、皆さんにお話を伺ったところ、皆さん最初は、ほんまかいなど。

○吉田所長 思います。

○質問者 そういうふうに思われて、多分そうだろうと思うんですけども、そこはやはりほんまかいなど。

○吉田所長 そうです。さっき言葉足らずになりましたけれども、私などは、最初に入ったときの津波がチリ津波なんです。高くて3mぐらいというのを、入社したとき、昭和54年とか、そのとき福島第二の建設から私は入ったんで、一応。

○質問者 3mオーダーですかね。

○吉田所長 3mオーダーで進めたということで、津波はそんなものなんだと、それからずうっと30年近くそのイメージでした。

○質問者 平成14年に土木課長になりましたね。でも、5ですものね。

○吉田所長 それぐらいのオーダーで聞いていましたから、10とか、10幾つというのは、やはり非常に奇異に感じるというか、そんなのって来るのと、要はそういうことです。

○質問者 武藤さんも、正直にと言ったら変ですけども、ざっくばらんに話していただいて、基本的には起こらないだろう、ただ、聞いてしまったから、そこはやはりちゃんとやらなければいけないというスタンスで、非常にわかりやすかったんですけども、部長もそういうスタンス。

○吉田所長 そうです。

○質問者 わかりました。ちょっと本当かいなど。

○吉田所長 そう思いますよね。

○質問者 この話が上がったときの部屋の雰囲気みだいなものを伺いたかったんで、これは大変だという感じなのか、おいおい待てよ待てよという感じだったのか。

○吉田所長 たぶんね、僕、この直前に聞いてますから、この中ではそんなに驚かなかったと思うんです。その前に部長として聞いてますから、本当なのという、そのときの感じはそうですね。その状態のままこの会議に突入して、■■■とか■■■が説明するのを聞いていて、武藤が、本当かよという感じだったのは、何となくそんな雰囲気だったと思います。

【取扱い厳重注意】

○質問者 6月10日の場に上がる前に、当時の吉田部長が、武藤さんにだけ前振りを入れておかなければ驚くかもしれないからという感じで話を上げられたとか、そういうことはありましたか。

○吉田所長 わかりません。このころ毎日のように柏崎の話をしていて、20年6月10日というのは、これだけ考えると、ものすごくフォーカスされるんですけども。

○質問者 私も、KKの方がメインというのは重々承知しております。

○吉田所長 柏崎のSsという、要するに新しい設計地震波ができたのは、私の記憶だと5月20日だったか、21日だったかです。これを世間にオープンして、非常に大きい地震動ですから、これを外に打ち出し、これから我々はこの地震動で、1,000ガルというものですけども、1,000ガルで耐震補強をしますというやりとりが、仕事の9割9分がそれでした。

○質問者 どちらかというところ、そこの中にときどき（津波の話が）ぽっと出てくる話という位置づけだったわけですね。

○吉田所長 そうです。1,000ガルになると、ものすごい耐震強化工事をしないとダメですから、どうするんだというようなところをほとんどやっていて、そういうのは傍流と見たらおかしいんですけども、当然そうなります。1つの大事な仕事はね。

○質問者 私もそれが当然だと、まだ翌年で、再稼働に向けてどうするんだと、KKがメインの状況だったろうと思います。その中でこんなものが出てきても、おいちよっと待て、本当かよそれ、という感覚なんだろうとは拝察しておったんですけども、吉田所長の御記憶としても、大体、皆さんと同じような。

○吉田所長 はい。

○質問者 わかりました。そのときに、これをひもときますと、こういった高さが来そうですということで、真面目な■■■さんから、■■■さんは、ああいう方は絶対に組織に必要な、すばらしい方で、本当にきちっとやっていただいているんですね。

○吉田所長 あんな人間はなかなかいないですね。

○質問者 この（波高の）出し方というのは、当初あった波源モデルを無理やり持ってきてみましたよということが書いてありまして、いろいろ説明もあつたり、あと、これは御記憶ございますか。防潮堤をつくったらエネルギーがどうなるかみたいな。

○吉田所長 ありますよ。そのときに聞いたかどうかは別にして、10mを超えるというのが来るんだとしたら、どうすればいいのよという話は当然あるわけで、そのときに1つのあれとしては、防潮堤を沖合につくるということがありますという話があつて、防潮堤をつくったらどうなるんだよという話は聞いたと思います。このときだったかどうかは記憶が定かではありません。

○質問者 そのときに、いろいろな方に聞くと、言い出しっぺがどなたかわからないんですけども、これをつくったら、おれたちは助かるからいいけれども、周りに行って、周りに御迷惑がかかるんじゃないのという問題提起をされて、結局、防潮堤案はネガティブ

【取扱い嚴重注意】

な評価になっていったようなんです。

○吉田所長 それは、多分、私が言い出した可能性が高いと思います。さっきも言ったみたいに、この評価そのものが原子力発電所だけではなくて、地域全体の防災対策の一環にならないといけないから、発電所だけ守っていいということだけではないだろう。

○質問者 トータルデザイン、そういうふうにしなればいけない。

○吉田所長 そこはしっかりしておかないと、かえっておかしい話になるぞ、つくってしまって、この評価結果を出したら、両脇がものすごく津波が高くなりますと。

○質問者 おれたちだけが助かっていいのかと。

○吉田所長 という話になるから、そこは、防潮堤の長さにしても何にしても、自分たちだけ助かる長さでやっているといいのかという話はしたつもりです。

○質問者 わかりました。武藤さん、■■■■さんは、おれが言い出したんではないかと、自分が言い出したみたいな話なんですけれども、皆さん、同じ思いを持たれていらっしゃるって、鶏・卵はわからないですけれども、誰からともなくそういう話があって、所長におかれては、自分から言い出したんではないかという御記憶。

○吉田所長 あります。

○質問者 わかりました。こういった話が出て、最終的にいろいろ御相談もされたんだと思います。武藤さんから4つの宿題が出まして、まず、津波対策を実施するか否かの判断に関わるので、ハザードの検討内容について、どういうものか詳細に説明してくれよというのが1つ。それから、4mの場合の遡上高さをもうちょっと低減する概略検討を行え。それから、沖に防潮堤を設置するために必要となる許認可を調べろ。それから、並行して機器の対策についても検討しなさいというふうな宿題が出された。武藤さんがこういった宿題を出していたなとか、おれも検討して、一部助言して、こんな話を武藤さんが言っていたなとか、何か。

○吉田所長 思いますよ。そういうことを武藤が言い出したのか、私も途中で言っているかわかりませんが、この会議としては、そんな話をした記憶はありますよ。個々のものはちょっとあれですけども、いずれにしても、この話を聞けば、普通こういうコメントをするのが当たり前なんですね。

○質問者 わかりました。そこで、次の7月31日に、これは議事録が残っていないんですけども、宿題返しのペーパーがある。

それと、もう一つ、想像できるのが、7月31日の11時1分という、■■■■さんがほかの電力とかに出したメールがあるんです。この問題に対する東電のスタンスが、大体こんな内容で行きますというメールを出してまして、■■■■さんが、これに先立つことの朝一でこの話をしたと思うとおっしゃっておいでです、恐らく7月31日の朝一に、宿題返しでどういたしましようというふうなやりとりがあったんだと思うんです。

そこでまずお尋ねなんですけれども、この6月10日の頭出しの報告が上がった後、7月31日までに、当然、KKがメインとはいえ、何かの場で、柏崎刈羽連絡会の保安院での、

【取扱い厳重注意】

毎週金曜とかのもあったかと思うんですけども、いろんな場で、例えば、所長が、武藤さん、例のあの話ですけども、てんまつのつけ方として、方針はどうしますかねとか何か、武藤さんとの相談とか、そういったものをされた御記憶はございますか。

○吉田所長 ほとんど記憶にもその辺は残っていないですね。ただ、保安院との話はともかくとして、社内では、地震の、特に中越沖地震の対策の会議を社長会という形で月1ぐらいの頻度で、日曜か土曜日に集まってやるというのがありまして、その中で当然のことながら、一番重要なのはお金、お金というとおかしいが、対策費用が非常に大事なことだと思いますから。

○質問者 大事なことだと思います。

○吉田所長 その対策費用の概略をそのころ、ずっと御説明、毎回しておったんですね。

○質問者 それは柏崎。

○吉田所長 そのときに、お金は柏崎がメインなんですけれども、当然のことながら、その水平展開の話になってくると、第一、第二の、一番重要なのは耐震強化ということで、強化費用がどれぐらい要るんだとかいう話になってきて、当然のことながら随伴事象で津波の対策費用もあるわけですから、その辺、何かしないといけないというお話は出ていると思うんです。

○質問者 この6月。

○吉田所長 いえ、タイミングはよく覚えていないんです。このときにお金の資料をおかけしていたんです。そこで、柏崎に幾らかかる、耐震補強工事でこれぐらいかかる。当然、地震が来て壊れておりますから、二千何百億が特別損失ですよ、あとは耐震補強工事にこのぐらいかかるとか、解析にこのぐらいかかるとか、要するに、今後の経営のあれになりますから、お金がこれだけかかりますよ。当然、福島第一、第二についても、その時点ではまだ耐震強化工事というものがどれぐらいの規模になるか見えていませんから、例えば、解析をしないといけない、調査をしないといけない。それから、単純に水平展開で、今の免震重要棟がありますね、今回それで助かったんですけども、ああいうものを福島第一、第二にもつくらないといけないとか、そういう費用全体を見渡せるような資料については御説明しておって、その中で、当然、津波対策の費用を計上しないと全体像をつかめない。ただし、こういう話でどれぐらいの波高になるかわかりませんから、福島第一、第二の津波対策費用は別途検討中で、このお金の中に含まないということは最初から申し上げた記憶があるんです。それがこの後だったのか、もうちょっと後だったのか、そこは記憶がありません。

○質問者 それは所長が武藤さんに説明をされたということですか。

○吉田所長 いえ、その朝会の資料です。ごめんなさい、朝会と言うと混乱する。東京電力の中越沖地震対策会議というのが、常務会、経営政策会議とは別に、毎月1回もしくは2回だったかもわかりませんが、柏崎の話が非常に濃い時期だったんで、社長、会長、XXXXXXXXXX、原子力は勿論、武黒、武藤、私とか、関係者が集まりまして、柏崎の検討

【取扱い嚴重注意】

状況のお話をする会をやっていました。

○質問者 報告をする、進捗状況とか。

○吉田所長 はい。いろいろコメントをいただくような会議をやっていました。その中で、例えば、さっき言いました、この前の5月に柏崎の基準地震動が出ましたというか、こういう計算でこれで外に打ち出したいと思えますとかいう話をまずそこでして、必要なものは常務会とか経営政策会議にかけて、ステップとして報告する。社内では、正直言うと、そういうステップを取っていた。

○質問者 もう一度、名前を確認したいんですが、中越沖地震対策会議。

○吉田所長 正式名称がないんです。

○質問者 なるほど、内部的なものなので。

○吉田所長 これは、会長が、会長がというか。

○質問者 この当時、会長と社長は。済みません、勉強不足で。

○吉田所長 7月以降は勝俣が、ごめんなさい、清水さんはいつだったか、忘れてしまった。中越沖地震があったときは勝俣社長、田村会長だったんです。だから、平成20年に清水社長になったのかな、勝俣会長になったのだったか、21年だったかな。忘れてしまった。何せ、勝俣さんですよ。勝俣さんが、常務会だと時間が限られていますし、細かい議論ができませんし、状況説明といっても、本当にベースのところの話ができないので、事前に詰める会をやるべしという感じで、中越沖地震が起こってすぐぐらいにその会議が始められた。

○質問者 その会は、上の方がイニシアチブを取って、いろいろ話を聞きたいから、真ん中を取り払っていろいろ聞かせてくれということで設置されたんですか。

○吉田所長 真ん中を取り払うというより、検討部門が原子力本部ですから、本部から話をしっかりと定例的に聞きたいということで、2つあって、我々技術屋の検討状況の話がまずベースにあって、それから、こういう言い方をしたらあれですけども、地域対応ですね。いろんな打ち出しについても、例えば、新潟県であれば、新潟県の知事とか、地元柏崎市長とか、刈羽村の村長とか、こういう人たちにどう説明するかとか、もっと言うと、地域住民全体に今の東電の検討状況をどういうふうに説明するかとかも含めて、全体の大きい方針をざっくり決めて、その内容を常務会なり経営政策会議に、すべてかけるわけではなくて、部分ですけども、かけてと、そういう会議なんです。

○質問者 では、いつごろ、それが立ち上がったんでしょうか。

○吉田所長 19年の7月の地震直後から、最初はばたばたしていましたから、1か月後ぐらいか何か、最初は毎日のように会議をしていましたからね。

○質問者 対応に追われて。そのうち大体、月1になった。20年のころは月1で。

○吉田所長 多分、月1か、場合によっては、議題が多いとき、基準地震動で、これからの根幹に関わるものは結構詰めて月2とか、やっていたような記憶があります。それは事務局に聞かないと私も記憶にないんですけども、それはもともとずっとありましたから。

【取扱い嚴重注意】

○質問者 わかりました。そういう上の方のニーズもあって、そういうのが開かれていて、その場において、所長や武藤さんから、今、軽減対策、耐震対策、このぐらいのお金がかかります、地震動、結構ごついのを設定したんで、やはり結構かかりますというふうな話とか、そういったテーマを持って、どのくらいかかるかという認識を持ってもらう。

○吉田所長 そうです。その中には必ず1F、2Fの水平展開も入っていました。

○質問者 その水平展開も、地震動対策としての対策をどうするかということでの1F、2Fにおける、大体平行で、水平展開といたら、これくらいかかるのではないかなというふうな概算的なお金ということですか。

○吉田所長 はい。

○質問者 恐縮なんですけど、KKでは大体幾らぐらい。

○吉田所長 特別損失を途中で修正したり何かしたので、私も記憶がはっきりしませんが、最初、2,430億ぐらいだったと思うんですけども、特損を計上して、途中で見直しているかも知れません。ただ、オーダーとしてはそんなものです。それが単純な特損です。今度は地震動の、まずは調査が入ります。海域調査、陸域調査、それから、地震動の解析費用があって、それに基づいて、いろんな機器、建屋の補強費用で、一等最初は1プラント大体100億ぐらい、だから、7プラントで700億ぐらいというような金額は上げていたんです。

○質問者 それは、特損の、いわゆる元に戻すのに、更に設定した基準地震動に見合う積増分と、この。

○吉田所長 設備投資ですね。

○質問者 そういうことになるわけですね。特損分と設備投資分。わかりました。

○吉田所長 ですから、特損、設備投資を上げる。それと、今、言ったように、途中、調査したり解析したりするのに結構大きい費用がかかります。これが柏崎全体で500億とか、そんな金で見ていたような気がします。それに補強費用の計上。

○質問者 解析などで500、更に設備投資分として1プラント100。

○吉田所長 ぐらいのオーダーでしょう。特損、調査、解析、それから、もっと話がややこしいのは、災害に強い原子力発電所づくりということで、耐震強化工事とはちょっと違うんですけども、免震重要棟を柏崎にもつくりました。ああいう費用とか、消火体制を充実しますとか。あのとき、変圧器が燃えて大騒ぎになりましたので、災害に強い発電所づくりみたいな費用が、これも金額ははっきり覚えていないんです。何せ柏崎が、特損とか、全部込み込みで四千何百億。1プラントつくる費用だと最初に言っていたので、四千何百億要るよねという感じでした。

同じく1F、2Fについては特損は関係ないんですけども、水平展開の耐震強化と、調査とか、それから、今、言ったみたいに免震重要棟というような災害に強い発電所づくりという費用で、ざっくり上げていたんです。それがだんだん時期を経るごとに検討して、精度が高くなるというか、そういうステップで適宜報告していった。当然、対策

【取扱い嚴重注意】

費用の中に、今みたいな話が、どこで出したか覚えていませんけれども、1F、2Fの場合は柏崎と違って、場合によっては津波対策の費用が必要であるというお話はしていたと思います。それは防潮堤をつくるのか何かというのは、本当にそれがいいのかどうかかわからないしというのがあるので、金額は未定だったんですけれども、それから、波源が何だかんだという調査もまだ十分していませんから、そこは別途計上という形で御説明はした。

○質問者 わかりました。1F、2Fの水平展開分の概算は、数字として幾らぐらいですか。

○吉田所長 この3月11日以降、記憶がまだら状態で、私は結構銭には厳しくて、大体覚えているんですけれども、それがすっ飛んでしまうぐらいですから、幾らだったかなと思うんですけれども、10プラントで、柏崎ほどは要らないねという話をしておいてですね。耐震強化ですよ。100とは言っていないけれども、今の災害に強いも込み込みにして、10プラントで一千数百ぐらいのお金を計上していたと思います。1F、2Fの4プラントプラス4プラント、10プラントですね。

○質問者 なるほど、わかりました。それでは、この7月のときの、皆様から伺っているのは、大体こんな方針が決まったようなんですというお話と絡めて、もう一度、別途計上の話の意味なども確認させていただきたいと思うんですけれども、まず、7月31日に宿題返しをされました。これは宿題返しの内容がいろいろ書いてあるんですが、対策、この追加検討でいろいろしてみましたと、いろいろ書いてあります。あと、防潮堤をつくったら、金額がちょっと困難だと。

○吉田所長 これはまず許認可ですね。金額はこれですね。

○質問者 というふうな内容で、あと、他原発はどうなのか、女川は従来の土木課長だけでも、いろいろ書いてあります。こういった説明をいろいろされた上で、どういう決定がされたかについて、説明ペーパーなのでここには書いていないんですけれども、GMが、その後、皆さんに出しているメールなどを踏まえまして、まず、推本の長期評価については、評価方法が確定していないので、直ちに設計に反映するとか、そういう話ではないだろうというところが書いてあるんです。

推本で三陸、房総が云々かんぬんというふうな指摘は事実であるが、原子力の設計プラクティスとして、設計評価方針が確定しているわけではないという内容ですとか、今後、電力大として、電共研で、土木学会の検討を通じて太平洋側津波地震の扱いをルール化していることとするが、当面、耐震バックチェックは土木学会の津波をベースにします、これについて有識者に理解を、土木学会の委員の皆さんに理解を得ていきます。

何もしないというのではなくて、もっとぶっちゃけた言い方をしますと、ほんまかいなと、まあ、来ないと思うけれども、聞いてしまったから、一応念のために、きちっと土木学会にかけて御判断してもらいたい。それで、やはり来るということになったら、それはきちっとやりましょう。でも、それもわからない段階でこんなのをやれるか。やれるかというの、やる必要があるのか。それまでは当面のラインで行きましょうという話になっ

【取扱い厳重注意】

たようなんですけれども、そこまで、今、御紹介しまして、御記憶は。

○吉田所長 間違いないと思います。そういう流れですね。

○質問者 それは、武藤さんにお任せでこういう話が出たのか、それとも吉田所長と話されながら、大体こういった方針ができて上がっていったという感じなのか。

○吉田所長 基本的には、日本の合議体制ですからね。誰かがこうと言って、そうだよねと、そういう中で議論しながらということだと思います。

○質問者 7月31日の宿題返しに臨まれる何日か前までには、大体、方針は決めておいでだったという感じなんですか。

○吉田所長 これだけだと、要するに、何かをする、アクションを起こすに足りる状況になっていないねと。

○質問者 そこで、皆さんに等しくお伺いしているんですが、推本の長期評価の知見に基づいて、バーチャルでこういった数字が出てきたけれども、これはアクションを起こさせるものではないと判断された理由は何ですか。

○吉田所長 それは、要するに、福島県沖には波源がないと。私はほとんど素人ですから、 だとか に聞くと、推本は太平洋側のすべてのところに波源を置くような考え方をしているけれども、確率から言って、それはどうなんだという話を言うと、それは学説から言うと、岩手県、宮城県、あれはもともとありましたから、結構ある可能性は高い。それから、こちら側の房総の方も高い。だけれども、福島県沖は空白地帯で、記録上も余らないという話になっている。そういうのはわからない。無理やりそこに波源を持っていくとすると、こうだと。だけれども、本当にそうなのか。そこら辺は学者さんたちがどういうふうにおっしゃるのか。

推本は言っているけれども、推本は結構、ざくっと決めてしまうではないですか。私たちが言いたいのは、東海沖などでもそうですけれども、推本が決めているから、国と地方自治体の防災対策会議はちゃんと推本どおりに動いているか。動いていないではないですか。これだって同じことで、推本が言っていたら、それに併せて国と地方自治体が解析して、何mの津波が来るんだから、至急対応すべしと動いていますかという、動いていないではないですか。ある意味で、無責任と言ったらおかしいですけども、学者さんたちが可能性あるよというのは幾らでも言えるんだけれども、ちゃんとものを設計したりだとかいうレベルまでなっているんですかと言うと、なっていないわけです。可能性を指摘しているだけの話ですから。

結局、それを実際の現場のデザインだとかに持っていくためには、それなりにしっかりとした、それが土木学会だと。妥当かどうか知りませんよ、地震の業界では、土木学会にかけるのがあれですと、 だとか が言うから、ちゃんとやらしてもらえばいいではないかということです。私自身はこの学会とはほとんどお付き合いがないですから、それが妥当な手法なのであれば、至急やらしてもらえばいいではないかということです。

○質問者 では、土木学会できちっとやらもらって、結論が出るまでは、来るかどうか

【取扱い厳重注意】

も、武藤さんははっきり、私は来ないと思っていましたとおっしゃっていますけれども、同じような。

○吉田所長 同じです。

○質問者 とはいえ、聞いてしまったし、念のためそれはちゃんと見てもらおう、来るという話だったら、これはちゃんとやろうよというスタンス。

○吉田所長 そうです。ですから、来ると決まったらやるというのは間違いなくそう思っていましたら、先生方が来るとおっしゃるんだったら、これはやらなければいけない。それは防潮堤をつくるのが妥当なのか、何をやるのがいいのかというのは、また並行して考えなければいけないけれども、少なくとも防潮堤というのはわかりやすいですから、防潮堤をつくるとすると、このぐらいのお金が要するという事は大体オーダーで押さえておかないと、経営層に昨日の今日で急にお金が要りますと言ってもだめだから、そういう意味で別途計上、こうなる。

○質問者 そこで確認なんですけれども、私が経営者だったら、当然、経営判断の法則もありますので、銭かけるにはそれなりの、株主様に説明できなければと思うので、その辺りの話は、GMとか、レベルが低いという趣旨ではありませんけれども、部長や武藤さんになってくると、その辺の話、まさに大所高所からと。

○吉田所長 柏崎だけで4,000億かかって、水平展開で1,000億かかって、がんがん使いやがってと言われている中で、防潮堤だって要りますよという話をしっかりとしていけないといけなくて、それが決まればちゃんとしていけないといけなくて。当然、頭出しはしておかないとまずい。だけれども、今、幾らと言っても、おっしゃったとおりで、株主代表訴訟だとか、説明責任を果たし得るのかというと、果たし得るだけのベースになっていないということ。

○質問者 そうすると、聞いていないよと言われる状況はまずいということで、頭出しをするけれども、別途計上、つまり、こういった話もあり得るので御念頭に置いておいてくださいと。

○吉田所長 先々、その費用が出てくる可能性もある。

○質問者 実際に幾らになるかは、これから土木学会に検討させますのでと。

○吉田所長 それが出てこない費用が確定しません。防潮堤であっても、何mの防潮堤にするんだかということ。

○質問者 もっと言うと、やる必要性がということもあるしということですね。やるとしても、何mオーダーなんだと、それで設計が変わるし、その辺りのこともあるので、まずは頭出しだけしておいて、詳しくは、今、土木学会で検討していますので、出た上でまたやります。今、KKで、水平展開で、重々承知しております、これ以上、何だかわけのわからないことにお金は使えませんし、きちっとやりますということ。逆に言うと、そこを上層部、経営陣に対する説明としても、お金をかけるということについて、合理的な理由があるという話になっていないし、ひいては株主の皆さんに対しても、こういうことなん

【取扱い厳重注意】

で、わからないですけども、やっておいた方がいいではないですかというわけにいかないでしょうというのが御判断としてあった。そういう話は、武藤さんとか、武黒さんや、中越沖地震連絡会議などでもされているんでしょうか。

○吉田所長 この資料を用いて説明をしたかどうかという記憶はありませんけれども、別途計上という限りは、何で別途計上なのという話に当然なるわけですので、高いのかという話になって、その流れの中で、土木学会の今の標準から言うと5、何mでいいんですけども、土木学会に再検討をお願いしているところです。それは経緯としてこういうことで、もっと大きい津波が来るという御指摘もあるので、どれぐらいのものが来るだとか、来るかどうかも含めて、それが妥当かどうか、土木学会にお願いしています。ただ、それが来るとなると、かなりの費用がかかります。例えば、防潮堤だとかいうような対応をすると、かなりのお金がかかるので、ここは別途計上という形にさせていただいておりますというように説明をした記憶があります。

○質問者 今、出てきたのは2つあると思うんですけども、まず、武黒さんに対する説明もあれば、この中越沖地震会議における会長、社長への説明もあると思います。

○吉田所長 それから、 だとか、企画担当役員もいます。

○質問者 まず、武黒さんには、所長からそういった御説明をされたんですか。

○吉田所長 武黒は、性癖からして、すぐ電話で人を呼びつけるんです。まとまった会議をするというよりも、来いという中でお話をしています。これまたややこしいのは、その席に武藤がいる場合もあるんですけども、いない場合に、武黒と1対1と話をしたというのが結構あります。武黒のヒアリングはもうされましたか。

○質問者 武黒さんには、津波の件ではこれから予定させていただきます。

○吉田所長 ほかのヒアリングをされていますか。大体が人間が細かいんですよ。気にすると気になるんですね。そういう中で、いろんなこと、例えば、さっきの中越沖地震の地震動だとかそういうことを説明すると、これはどうなっているんだとまた電話がかかってきて行く。

○質問者 気にかかってしまう。

○吉田所長 気にかかってしまう。そういう意味で、しょっちゅう行っていたんで、どのタイミングで説明したか覚えていませんけれども、当然のことながら、津波の話も、こんな検討を今しています。流れとしては、るる説明したように、推本の話があり、今村先生の話もあり、検討をしているけれども、大きい津波、波高の高い津波が来る可能性もあるけれども、これはまだよくわからない。これを土木学会等々で検討させます、やれという話をした記憶があります。

○質問者 これは武黒さんに所長自ら御説明された記憶がある。

○吉田所長 そのときは、武黒は私の話しか聞かなかったですよ。新潟対策も、1F・2F対策も、全部私が見ていましたから。勿論、 もいるんですけども、細かい話になると彼らと呼ぶんです。 とか も多分、ダイレクトで武黒のところの説明に行った

【取扱い厳重注意】

ことが何回もあると思うんですけれども、大きい流れだとか、こういう方針だとか、方向ですよという話は私を呼んでいました。

○質問者 武藤さんはそこに入れないんですか。

○吉田所長 武藤さんが入っている場合もありますし、お互い、非常に忙しいんで、武藤は他の先生対策をしていた。対策という言い方をするとまた叱られますけれども、御説明をしていた。

○質問者 武藤さん御自身で、それが役回りだとおっしゃっておいででした。

○吉田所長 武黒は全体見てですね、いろいろお金の話とか全体。だから、私は武藤のところの説明することもあるし、武黒のところの説明することもあるし、一緒に聞くこともあるし、いろんなパターンがあったんで、何とも言えませんが、武黒の場合、自分が時間があると、空いているのか、ちょっと来いという形で、時間が合えば部屋に入って状況報告する。ベースがそういうこと。そういう武黒の性格ですから、私も何かちょっと引っかかることがあると、御説明しておこうと思って、びよんびよんに入って行って、こんな話もありますよと言うと、そうかと。秘書を通じて、空いているかと言って、空いていますよと言うと入って行って、ものの10分ぐらい話をして帰ってくるというのは、このころはよくありました。ずっとどたばたの中で。さっき言ったみたいに、ほとんどが中越沖地震で、新潟を再開させるにはどうすればいいのだろうか。

○質問者 それが最重要課題ですね。

○吉田所長 メインですから、ほとんどその議論をしているわけですね。

○質問者 この中で、水平展開で福島が入ってくるんで、ついで話で、これもちょっと絡んでくるという、そういう図式だったわけですね。これメインで上がるはずもなくという。わかりました。

そうすると、次にお尋ねなんですが、武黒さんには大体、これを持っていくかどうかは別としまして、先ほどのような大まかな、武藤さんを中心に立てられた方針。

○吉田所長 筋書きはもうみんな共有していたと思いますよ。

○質問者 なるほど、わかりました。時期なんですけど、具体的に何月何日、これは当然、覚えていらっしゃると思うんですが、私もどちらかという自分でも長いこと持っておきたくない方なので、早目に上げるのかなと思うんですけれども、大体、こういった話をしても、例えば、これが7月31日であれば、もう8月の中旬には上げているだろうなというイメージなんでしょうか。

○吉田所長 多分、そうですね。

○質問者 そういう感じですか。わかりました。そういった話を、武藤さん、吉田さん、 さんだけではなくて、武藤さんが入っていたかもしれないし、入っていなかったかもしれないけれども、少なくとも所長の御記憶では、御自身で武黒さんへこの内容の情報の共有をされたという御記憶はおありだと。

○吉田所長 はい。

【取扱い厳重注意】

○質問者 そのときに先ほどの方針を御説明されて、かかるお金のことに關しては別途計上で、別途計上というのは、土木学会の結論が出てからでないとお出せませんので。そういうときに、話として、今、KKでこんなにかかって、1Fで水平展開でこんなにかかっているのに、更にふわっとした話で、数字を出した話でもありませんしというふうな話で武黒さんにも説明されている。

○吉田所長 数字を出す話ではないですというつもりはなくて、逆なんです。私のニュアンスは、必要だったらかかりますよと。かからなければ全然入れておかなければいいんですけれども、私は非常に心配だったから、土木学会の結論として、やはり今村先生の言うとおりでかね。

○質問者 どちらもあり得るということ。

○吉田所長 あり得る。経営から言うと、それだけ金かかることをある程度、覚悟しておいてくれというつもりで私はかけているつもりですから。何をやるか、どういう対策をするかは別ですよ。

○質問者 そこで、その次のステップなんですけれども、その話を会長や社長に中越沖地震会議の場でされたという御記憶は。

○吉田所長 ありますよ。そのときに、波源の話だとか、こんなのはしていませんけれども、要するに、先ほどの。

○質問者 どの程度の話までされるのでしょうか。

○吉田所長 基本的には、経営者ですから、お金見たときに別途計上と書いてあれば、何で別途計上なんだよと、普通聞きます。これはどれぐらいのお金を見込む必要があるんだと、経営陣として聞くのが当たり前なので、私の記憶ですから、どこまで正確に言ったかは覚えていません。けれども、ニュアンスとしては、大きく言うと、日本海側、柏崎の場合は、そんなに津波は気になりません。太平洋側の場合は、いろいろ学説が今、出ておいて、大きい津波が来るという学説もあります。それをベースに計算すると、今、想定している津波高の、何mと言った記憶はないんですけれども、要するに、今、5m何十cmという今の設計のベースよりも大きい津波が来る可能性が否定できない。そういう学説が出ている。それを今、土木学会で検討してもらって、それが妥当かどうかということの評価をしてもらうところとか、してもらい始めたところと言ったか忘れちゃったけれども、やってもらって、その結論が出れば、場合によっては高い津波が来れば、それなりの対策が必要です。そのときにはこの費用がそれなりに固まってくるんで、それも5億、10億という話ではなくて、かなり桁の大きいお金が来ますよということを説明したという記憶があります。

○質問者 その説明は、御自身でされた御記憶ですか。

○吉田所長 大体、その会議の場合、技術的な話は私がメインでやっていたんです。大きい説明をする中で、細かいところは■■■■センター長だとか■■■■に、■■■■おまえ、評価の細かいところだけしておけという話をしますけれども、大体、お金の話は私が、大きく、お

【取扱い厳重注意】

金はこうですよという話はしていましたから、津波対策費用の議論も、お金の一環の中で私がしていた。

○質問者 わかりました。そういう話をされたのは、武黒さんに早目に上げたのと同じような発想で、やはり比較的早い段階。

○吉田所長 そうです。いずれにしても、先々、いつのタイミングになるかわからないですけれども、ある結論が出て、早くやらないといけないとなると、スパンが大体、平成19年からですけれども、1Fも耐震強化工事が、解析も非常にもう、メーカーが人が足りませんでしたから、終わるのが平成24~25年ごろまで、各号機、全部しっかりフルスコープでやるとするとなるので、当然のことながら、そういうスコープの中では、この話が出てくれば、お金として計上しないといけなくなりますからという意味です。

○質問者 そうしますと、社長や会長、勝俣さんがどちらかわからないんですけれども、そのときに話された話としては、勿論、KKの話がメインで、これだけで、水平展開でこれだけでと、別計上というのは何だよと、先ほどのような御説明をされる中で、津波でこんな話がありまして、ただ、それは今、練れていないので、ちゃんと見てもらっているところですが、大体、ふわっとそんな話をされたときに、試し計算でもいいから、どんな波高の津波なんだいとか、そういった話までされたんでしょうか。

○吉田所長 そこは余り記憶ないんですよ。10mということを行ったか、10mを超えるという言い方をしたかどうかは記憶にないんですけれども、もともと防潮堤みたいなお金の、数百億のオーダーが計上されるとなると、それは10mぐらいを想定しないと、そんな金になりませんから、10mというリジッドな値を行ったのか、5m何十cmという今の基準を超える津波が来る可能性があると言ったのか、定かではないです。ですから、10という形を行ったかどうかは別です。だけれども、当然のことながら、5.何mは当然超えるから、費用は要るわけですから。

○質問者 では、現在、前提としている評価を超える。

○吉田所長 超える、勿論。

○質問者 この超えるは、かなり超えるとか、結構高いという感じなのか、それとも、余り。

○吉田所長 その後もやったんですけれども、5m何十cmから6m何cmになるときは、ポンプの嵩上げをしたんです。

○質問者 6号機の、はい。

○吉田所長 あれぐらいの話であれば、金額的に言えば数億範囲か、1億ぐらいの範囲のお金ですけれども、今みたいな防潮堤という話になると、オーダーがその100倍とか、場合によっては1,000倍ぐらいのお金になりますから、覚悟的にはそういう覚悟もしておくのよという中では、当然、10億と言ったかどうかは別ですよ、6mを大きく超えるような津波も指摘されているのでという表現はしたかもしれない。そのときの言い方次第なんです、私も全く記憶にないんですが、文脈からすると、1億、2億で終わるような話は、4、

【取扱い厳重注意】

000億とか、5,000億とかいう議論をしているときに、これに2億かかるんですけれども、いただけますかなんて、絶対しないわけです。

○質問者 そうすると、少なくとも、別途計上とはいえ、例えばという形で、口頭では金額も幾つか、例えば、数百億とか。

○吉田所長 2億、3億の議論だったら、別途計上などにしないんですよ。

○質問者 書く必要さえないと。なるほど、わかりました。

○吉田所長 別途計上ということは、それなりの大きいお金が来るよと。大きいお金とは何かというと、防潮堤なのか、港湾全体の設計の見直しなのか、わかりませんが、そういう基準になれば考慮しないといけないという前提ですから。世間はメーターにこだわっているんですけれども、メーターはともかく、6mを超えるということになると、かなり大規模な工事をしなければいけないということは間違いないですよ、それはちゃんとイメージしておいてくださいねという意味で、ここに一種の備忘録的に別途計上という形ですよというのが私が予算を説明したときの趣旨ですから。

○質問者 わかりました。そういった予算発動があり得るような指摘もございませうという話をされたときに、社長や会長の反応は覚えておいでですか。

○吉田所長 ほとんど覚えていないんですけども、会長の勝俣さんは、そうなのか、それは確率はどうなんだと。勝俣さんの場合、非常に理論的ですから、説明すると、蓋然性というか、どれぐらいなんだと、こういう話はされたと思うんですよ。多分、性格からしてもですね。いずれにしても、学者によっていろいろ説が違いますから、そこを詰めてもらっているんですよという話で終わっていますので、それ以上の議論にはなっていないです。

○質問者 それ以上の御下命は特段なかった。

○吉田所長 はい。

○質問者 では、皆さん、本当にトップの方も含めて、どうなんだろうねということなのであれば、きちっとやってもらって、必要だとなったらやろうかということ。

○吉田所長 全然ぶれてなくて、みんなそう思っていたと思いますよ。

○質問者 わかりました。そこで、もう一点、私がそう思っているという趣旨ではなくて、国民の皆さんなのか、一部の委員なのかは置いておきまして、要は、原発というのは何かあったら大変なんだから、ちょっとでもそういう話があったら、そういう話がございませうね。その観点から伺うんですが、先ほど所長もおっしゃられたんですけども、この推本の話は、両方、土木学会の結論はあり得るだろう。そもそも大丈夫ですよという話もあり得るだろうし、前よりは結構来ますねという話もあり得るということであれば、来るかもしれないということを見越して。

○吉田所長 直前に手を打ったらどうだったんだということですか。

○質問者 いえ、そういうドラスティックな話ではないんですけども、何かしら見切り発車的な、不完全なものでもいいからやっておこうとか、例えば、後でまたお話を伺う

【取扱い嚴重注意】

んですけども、所長がこちらに異動された後に津波対策ワーキングというのが立ち上がって、いろいろ検討されたりしているんです。そういった中で、本当に来るかわからないけれども、やれるところから、結局、そこまでやっておかなくてもよかったとなったら、それはそれでいいではないかという感じで、幾つか対策をやってみるという。

○吉田所長 その辺は、多分、京都大学の先生だと思うんですけども、学者さんの発想であって、要するに、設計が決まらなければデザインできないではないですか。それを、何をもって、ちょっとでもと。ちょっとを、あなた、どうなんですかと。京大の某教授だと思うんですけども、元の総長か、あのおっさんだと思うんですけども、あのおっさんだって、知っているのではないのかと私は言いたい。学者の発想であって、実際に実務でものをつくる人間が、デザインベースをもらわなければ設計できないですよ。それが10だと言われれば10でもいいし、13なら13でもいいんですけども、こういう津波が来るよという具体的なモデルと波の形をもらえなければ、何の設計もできないわけです。ちょっとでもというのは、どこがちょっとなのだという話になるわけです。

ただ、我々としても、そこは丁寧にやってもらわなければいけないということで、わかっている範囲では、6号の嵩上げをしたりだとかいうことは気にしてやっているわけですから、それはちょっとの中に入らないと言われたら入らないかもわからないけれども、学者的に、ちょっとと言ったら、ちょっとをあなた定義してください、どこまでをちょっとと言うんですか。デザインする側からすると、そんないい加減なデザインはできないわけです。そこを決めてもらうために土木学会をお願いしているんであって、土木学会がこうだとおっしゃるんだったら、例えば、15mと言われれば、至急それに対応した対策を当然うちはずるということは、間違いなくそう思っていました。

○質問者 わかりました。この辺をまとめますと、20年の6月にそういった話が出てきて、7月に宿題返しがある中で、方針として、所長も、また武藤さんもいろいろ検討されて、1つの方針、すなわち、本当にこんなものが来るのというのが正直な気持ちであり、来ないのではないかと思いつつも、少なくともそういった話なので、この段階で、はいそうですかということ、その試し計算に基づいて予算を発動して、何かつくるとい話ではない。しかしながら、そういった話があるということを見捨てることもできないので、土木学会にかけて、きちっと見てもらおうではないか。その結果、ウンメートル来ますよと言われたら、きちっと対策をやるのではないかという考え方で、それまでは、何だかわからない話なので、これまできちっとやってきた平成14年の土木学会の評価に基づく5.何mオーダー、途中で先ほどの6mというのが。

○吉田所長 湾の中でのね。再調査したんで。

○質問者 海上保安庁の水路部の発表に基づいて計算し直したら、0.2ぐらい上がって6になったということだと思うんですけども、それは置いておきまして、そういうことではなければ、平成14年の5mのオーダーでやっている、その既存の安全対策は基本的に問題ない。それを覆すような話が土木学会から出たならば、それに必要なものをちゃんとや

【取扱い厳重注意】

りましょうと、こういったスタンスで方針を決められて、それを武黒さんにもほどなく、すぐに上げられて、またほどなく開かれた中越沖の地震対策会議でも、社長、会長にも、この話を上げたというよりは、KKの話の中で、別途計上を書いてあって、何だこれというということで、一応、こうなんですよということなわけですね。別途計上と書かれた話ということなんですけれども、どちらもあり得るので、後から、いや、実と言って話を出すと、聞いていないとなるのはやはりまずいという御判断ということですか。

○吉田所長 ですし、最後は経営はお金ですから、本当にお金では苦勞していますので、私などは一番銭を使った男と言われてますから。

○質問者 それは、中越沖が起きたから、たまたまそのときに当たった。

○吉田所長 そうそう、私が使ったわけではないんです。部長として、いきなり大きい金を計上すると言われていたんで、当然、金のことはしっかりと認識してもらわないといけないというのが私の基本的な考え方ですから。

○質問者 わかりました。今、お金の話も出ましたけれども、設計としても、こんなふわっとした話はやりようもないし、また、経営陣に対しても、株主に対しても、この程度の話で、来るかどうか分からないものにお金をかけるということもできない。また、それが所長のみならず、武藤さん、武黒さん、社長、会長、皆さん、基本的に。

○吉田所長 そういう認識だったと思います。知りませんということではないと思います。

○質問者 わかりました。

もうちょっとで12時になりますので、もうちょっとだけ。

○吉田所長 いいですよ。ちょっと、おしっこに行きたいんですけども。おしっこ、たばこ1本だけ吸ってすぐ帰って来ますから。

○質問者 たばこも遠慮なくおっしゃってください。

(休 憩)

○質問者 そうしましたら、先ほど、平成20年7月のところまでの話を伺いましたので、その後なんですけれども、■■■さんと■■■さん、■■■・■■■組がいろいろな土木学会の先生にお会いして、東電はこういうスタンスで行こうと思うんですけども、いかがでしょうかということ、いろいろ行かれてというふうな話で進んでいくんですけども、順番に言いますと、10月に首藤先生への御説明とか、首藤先生には、土木学会にかけるという関係で、土木学会での検討のとりまとめ役をお願いしてという話ですとか、あと、貞観の関係で佐竹先生からお話が出ているとか、■■■准教授とか、こういった動きがあるんですけども、まず、お尋ねなんですけど、こういったことについて、行ってきたらこうでしたというのは、毎回報告は。

○吉田所長 聞いていましたよ。

○質問者 受けていらっしゃった。そうですか。

【取扱い厳重注意】

○吉田所長 結構、彼らも、■■■■はどちらかと言うとぼわっとしているところがあるんですけど、ぼわっとしているけれども、細かいんですけど、■■■■はもっと細かいじゃないですか。だから、先生のところに行ってきたという話は、こういう議事録そのものを見た記憶は余りないんですけど、寄ってきて口頭で説明受けたとか、昨日、今村先生のところへ行ってきまして、こんな話でした、ああ、そうなの、バックチェック、後でいいのねというような話は、その都度、大体、聞いていました。

○質問者 なるほど。そのときに聞かれたことで、覚えていることとか、何か印象に残っていることはありますか。

○吉田所長 イメージ的に、相場観として、要するに、今日明日何かやらないといけないと言っている先生はいないということだけはですね。波源をどこに置くかなどというのは私の知ったこっちゃない。知ったこっちゃないという言い方は、専門ではないので、専門ではないことについて私は四の五の言える立場ではないので、先生のいろんなお考えと、専門家である■■■■なり■■■■の判断に任せているんですけど、それと、先生と話してきた範囲では、こんなことでした、ああ、そうなのと。今言ったように、全般的に、今日明日何か急いで対策をする必要があるというふうにおっしゃっていないという相場観だけは持っていました。

○質問者 わかりました。そんな中で、平成20年10月に、佐竹先生のところに話をしに行ったときに、貞観地震津波に対しての話をされて、■■■■さんは、佐竹先生から、まだ原稿なんだけれどもねということでドラフトを渡されたということがあるんです。そこで、これまでは推本の長期評価だったんですけど、貞観地震・津波の話が加わってくるんです。この貞観地震・津波に関して、御自分の認識の中に入ってきた時期というのは、いつごろの御記憶ですか。

○吉田所長 多分、そのころだと思います。■■■■も、そういう話が来ると必ず話をしていましたから、彼の記憶が正しいのであれば、彼がもってきた直後にそんな話は聞いていると思います。私は、貞観津波といったときに最初に思ったのは、中国に『貞観政要』という古典がありますね。日本にも「貞観」という年号があったんだななどと思って、それは何年ぐらいなのかと思ったら、八百何年とか、それがまず最初でした。貞観津波はとりあえず置いておいて、「貞観」という名前に記憶があつて、ふうんとか言った記憶がありますから、多分、■■■■からそんな話を聞いた直後には、そんな記憶があったと思います。

○質問者 その貞観がこうだ、ああだというふうな話というのは、■■■■さんから、波高がこうだとか、ああだとかいう説明は。

○吉田所長 最初に聞いたのは、八百何年に、貞観何年に貞観津波というのが来たということ、それを佐竹先生が調べていて、それがどれぐらいの津波をもたらしたのかについて、学説というか、調査をされていると。まずはそういう話を聞いて、それはどこが一番被害なのという話を聞いたら、やはり宮城、岩手、あの辺がかなり津波が来たようですよと、最初はそんな話だったと思うんですね。その後で、貞観津波の波源をどうするという議論を別

【取扱い厳重注意】

にして、貞観津波でどれぐらい、いろんな地域に影響があったのかを調べる必要があるという話もその後で出てきて、それは調べればいいではないか、どっちみちいろんなことを調査しているんだから、無視できないんで、福島にそれがどんな影響を及ぼしたかは調べる必要があるでしょうという話で来たというのが大きい流れだと思います。

○質問者 わかりました。次に、エビデンスで1つ、平成20年の12月なんですけれども、「福島第一、第二地点の津波評価」というのがありまして、学者の方には了解されたりしましたよという話と、あと、佐竹さんから、貞観津波に関する論文をもらったけれども、知見が確定していないので、推本同様に、やはり電共研で検討してもらいますよと、こんなふうに内容が書いてあって、その後の状況ということで、貞観津波については、東北電力と調整を行ったら、女川の既往の安全審査で触れているから、最終報告でも触れざるを得ないという状況らしいですよとか、そういったことが書いてあった。

あと、推本の方は、阿部先生から、推本の取扱いについて、阿部先生というのが別途出てくるんです。推本を無視するもよし、向き合うもよし、しかし、無視するのであれば、それなりの理由が要るよと言われたという話なんだけれども、そういったことなどもあったということが書いてありまして、試し計算の結果なのか数字が表にまとまっています、貞観の数字も加えてきております。めぐりますと、対応スタンスとして、今後どうするかということで、貞観津波をどうする、推本同様の対応をするよ、福島県沿岸で津波堆積物の調査を実施しようと思うよと。この津波堆積物の話は阿部先生から、堆積物があるかどうか調べるのも一案というふうに示唆をいただいたということで、やることになった。こういった内容で対応スタンスを、■■■■さんと■■■■さんが所長にお諮りして、所長からOKをもらって行ったと、こういった説明をされているんですけども、大体それでよろしゅうございますか。

○吉田所長 結構です。

○質問者 わかりました。このときに、貞観の試し計算の数値も出てきているんですけども、これは、それに先立つことの佐竹先生のところに行ってきましたという報告を■■■■さんから受けられたときに、一応、波源モデルが提示されているんで、計算してみようと思いますとか、そういう話は覚えがありますか。

○吉田所長 一応、試し計算するような話は聞きましたですよ。

○質問者 そうですか。わかりました。貞観の数字も出てきたんですけども、結局、先ほど、6月、7月に推本のスタンスと同じようにするというにされたようなんですけども、そのときのお考えなどについてどんなふうに。

○吉田所長 まず、貞観津波というのは、要するに、モデルがどうのこうのというよりも、過去の地震動による津波のデータが、今までの知見よりもプラスの知見を佐竹先生が出してきたということですから、それはそれで考慮する必要があるというのはあります。そのときに当然のことながら、波源も含めてどうするのというのは、さっき言った推本の検討の中で評価しないといけないという一環として評価すべきだと考えていました。ですから、

【取扱い厳重注意】

別物ではないんです。結局、この結果を土木学会で検討していただく中で、当然、貞観津波というのも1つの過去の地震動による津波という中で評価しないといけないという認識は持っていました。

○質問者 そうすると、受け止めとしては、佐竹先生の示した波源モデルを当てはめたら、こんな数字になるということにはわかった。ところで、これ来るのと。

○吉田所長 八百何年ですから、1,100年か1,200年ぐらいたっているわけで、可能性としてゼロではないけれども、それこそさっきの推本の話で、ほかの波源との絡みでちゃんと評価して、これが非常に強いんだったら、その評価に基づいてやるべきということです。ですから、ここで出ても余り驚かなかったのは、さっき10mという話をもうほかの波源で聞いていますから、one of themと言ったらおかしいんですけれどもね。

○質問者 いろんなメーターの数字が出てきたけれども、来ると思えないんだけど、そういうことを言っている人がいるんだったら、土木学会で見てもらって、これについても結論を出してもらおうと。

○吉田所長 一緒にやった方がいいんじゃないですかと。

○質問者 受け止めというのは、基本的に推本と変わらないということですね。わかりました。

○吉田所長 なおかつ、ここで記憶に残っているのは、大した話ではないんですけど、堆積物調査をすと言い出しているんです。堆積物調査というのは何をやるのと、わからないから聞くわけです。ボーリングするんです。ボーリングして何がわかるんだ。津波で持って来られた海中の貝だとか、海生物の化石みたいなものがある層で残っている。そうすると、その層が残っている前後の層を見たときに、後で隆起したり何かしていますから、何mの津波が福島で来たかを調べるのはそういう調査をするんですよと、真面目な顔して■■■■が言うから、貞観年間の方がみそ汁で貝を食って捨てたのを津波だと言うのか、山の方に集落があって、たまたまシジミやアサリや何かを食って貝を捨てたら、ここまで来ましたという、ろくでもない結果になるんじゃないか、そんなのは学術的に正しいのというようなことを言った記憶があります。

○質問者 ■■■■さんは何て答えたんですか。

○吉田所長 集落かどうかは別にして、何か所かやれば大丈夫なんだと、ぐちゅぐちゅ言ったんですよ。でも、おれはそんな調査信用できないなという話をした記憶があります。

○質問者 最終的には、やるのはいいよと。

○吉田所長 やることはどんどん、先生がそう言うなら。私はもともと、19年の新潟の地震があったときから、ずっと一貫して言っていたのは、データを全部出せと。今まで、ほかの電力も地震動などはそんなに明確に出さなかったんです。今回は全然デザインを超えたものなだから、データを全部出せ、公開しろ、地震動屋とか、あの辺は、だめだと、結構抵抗した人もいます。全部出せというつもりで、全部言いました。先生の言うことも全部聞けと。聞けというのは、調査しろと言われれば全部調査しろと。海であれ山で

【取扱い厳重注意】

あれね。というのは我々は最初から貫いていましたので、こんな話が出て、調査しろと言われたら、即やれ、お金はしようがない。今回、一から日本の原子炉の耐震設計を見直すタイミングなんだから、やることはちゃんとやりなさい。調査に対してヘジテイトするなというのはずっと言っていました。彼らも多分、そういうつもりで言ってくれたと思います。

○質問者 わかりました。そういうことなんで、津波堆積物調査についてはゴーを出された。貞観津波の知見という話については、基本的には、受けとめは推本のときと同じような話であって、これも土木学会にきちっと見てもらいましょうという話になった。貞観についても推本と同様のパラレルで対応しますということについて、所長は武藤さんや武黒さんなどに諮られたんでしょうか。

○吉田所長 「貞観津波」という言葉を私は何回か使っていますから、高さがどうかというのは別にして、推本でこの前、議論したような話があって、その中で特定の、今、佐竹先生という人が貞観津波というものをいろいろ検討していて、昔、結構大きい津波が来たという評価が出ていて、それは千何百年前の話ですから、もう時間もたっているんですが、その可能性も否定できないというような検討はしていっちゃいますよという話は、確実に武黒にも武藤にもしていると思います。

○質問者 そうすると、その時期は。

○吉田所長 これを聞いた後で、私は素人ですから、貞観津波などというのを初めて聞いて、貞観は『貞観政要』だなど、さっきの話にもありましたけれども、何年だとかいう話を聞いたら、そのときにいたかどうかは別として、間近ではあったという話をしています。

○質問者 これはいろいろあり得ると思うんですけれども、この話自体が、6月、7月に1Fの津波に関する対応方針について決めたものを超えるものではないから、自分限りで決定だけはしておいて、事後承認。

○吉田所長 いえ、そんなことはないです。「貞観津波」という名前は伝えていきますから、規模感をどこまで伝えたかは別ですけども、私の言い方としてはこういうことです。■がまた言っているんですよ。この前、東北大でしたか、佐竹先生のところへ行ってきたら、貞観津波とかいうのをまた聞いてきて、結構昔、貞観年間という、八百何年ぐらいに、そういう大きい津波が来たという学説を出していっちゃって、そんな話で検討していませんよという議論を、ちゃんと「貞観津波」という言葉を含めてした記憶があります。

○質問者 それを武藤さん。

○吉田所長 と、武黒。

○質問者 わかりました。武黒さんには自ら御報告された御記憶ですか。

○吉田所長 さっきの話で、このころ、ずっと親密に、こちらは別に親密にしたくなかったんですけども、いろいろと話をするついでに、例えば、1週間内で起こったことをいろいろ報告していたわけです。

○質問者 その中に入ってくる。

【取扱い厳重注意】

○吉田所長　そうです。柏崎が今、こんなことで、地震動評価で悩んでいるんですよとか、何々委員会でこんな話がありましたとか、適宜話している。その中で、1Fの津波の話ですけれども、■■■■が行ってきたら、こんな話になっているので、あれも1つの評価としてやりますし、堆積物調査をしるとか言っているの、やりますよ、ちょっとお金かかるけれどもというような話は当然しています。

○質問者　それで、武藤さんも武黒さんも了解ということ。

○吉田所長　そうです。

○質問者　その了解に加えて、何かコメントとか。

○吉田所長　ないですね。私の説明が悪かったのか、私と同程度に、推本の検討の中に含まれる1つの地震、過去の地震ということだと思います。

○質問者　わかりました。武藤さんは、このときに1Fの津波の話が出て、方針を決めた後、1Fの津波に関しては聞いた覚えがないとおっしゃっているんです。

○吉田所長　それはないですね。

○質問者　それは御記憶違い。

○吉田所長　貞観津波というのは、私はたしかその後で、ここで一回、社長、会長の会議でも話をしましたけれども、その後も貞観津波の話聞いた後で、また新たな話で、貞観津波というのがありますよということをしゃべった記憶があるんです。ですから、間違いなく私の記憶では、武黒にも武藤にも、その大きさとか、細かい、波源がどうだとかいうことを言ったかどうかは不確かですけれども、貞観津波というのが結構、今、話題になっている。佐竹先生という名前は出したと思いますが、そうおっしゃっている、これも一応、考慮しないとイケない津波、それなりの高さがあると。

○質問者　それなりの高さというのは。

○吉田所長　今のこれを超えるような。ただし、推本の結果と同等か、それより小さいぐらいだけでも、そんな話がありますよという話はしています。

○質問者　そのときに、それでは、このトラックに乗せて、ちゃんとやればいいんじゃないかというのが、大体、皆さんの反応だった。

○吉田所長　そうです。追加して、阿部先生の指摘だったかは忘れてしまったんですが、堆積物調査をしるとい御指摘があったんで、しますよと。いずれにしても堆積物調査の話を決めているわけですから、調査費が、お金がかかるわけ。であるとすると、調査費がかかるんだから、こんな調査をしますよという説明を武藤、武黒には必ずしているわけ。そうすると、なぜするんだという話になれば、貞観津波という話がありましてと、せざるを得ないではないですか。何もなしに、調査しますよ、お金を使いますと、そんなことが通るわけでもないんで、こういう理由で先生から御指摘いただいて堆積物調査をするんですと必ず言う中では、必然的に触れています。

○質問者　そうすると、その話の出方というのは、所長が武藤さんや武黒さんと話していらっしゃるときには、基本的には、日々、今後かかるお金の話がむしろ重要なので、その

【取扱い厳重注意】

話をしている文脈で、あと、堆積物調査というのも、今後、費用が出ますので、何それ、あっ、これはですねという中で、こういう貞観の話がありましてと、こんな感じの説明の仕方。

○吉田所長 そうですね。

○質問者 わかりました。それで、これを更に、先ほどのような会長、社長に説明をされたと。

○吉田所長 私、そこは余り記憶ないんですよ。ただ、堆積物調査の話までしたかどうかは別ですけども、その会議の席で、毎回お金の話は最後に必ず出るんです。前回、1か月前にかかったときと何かが変わってきていけば、金額が変わってきますから、例えば、見通しが甘かったから、もうちょっと金がかかりますとか、オーバーエスティメイトしていたので、ここの金額を査定すると抑え込めそうですとか、お金の報告は必ず毎回、最後にしているわけです。当然、1Fの話だっている中で、津波の別途計上の話がずっと入っていますから、最近、貞観津波というお話もありますということの名前として出した記憶はあります。向こうが覚えているかどうかは別ですよ。堆積物調査もその中で私はしていると思います。

○質問者 文字で出るほどのものではないけれども。

○吉田所長 ないですけども、そんなことがあって、先生から指摘いただいているんで、先生から指摘ばかりいただいていたんで、何々先生の指摘で、何々調べろとか、追加でボーリングしろだとか、山ほど先生対応だから、先生から言われたら全部やりますと言ったら、いいという話で、何々先生からこんな費用が入る、こんな費用が入ると言っていましたから、一環の中ではしていると思います。

○質問者 いろいろな先生がいろいろ言っておるんだな、相わかったというふうな感じだったわけですね。わかりました。

ちなみに、毎回、別途計上と書いてある紙は、何という名称の紙でしょうか。

○吉田所長 もう名前は忘れましたけれども、要するに、中越沖地震対応費用みたいなものです。何回かその文脈で、確定した時点で常務会にもかけていますから、社長会のときは、社長会というのは、プライベートと言ったらおかしいけれども、日曜日にやる月1の社長、会長も出た中越沖地震対策対応会議の席では、皆さんに、その時点の最新のお金のものをお配りして、ただ、お金なので、非常に機微に触れるので、会議後資料は回収させてくれと。だけれども、何回か常務会の席で、常務会だったか経営政策会議だったか忘れちゃったけれども、同じペーパーを出して御説明しています。その中にも別途計上というのは書いてあったと思います。

○質問者 このペーパーというのは何か、A4一枚横組みの。

○吉田所長 うちの場合は、そういう会議に出すときは、A3でパワーポイント4つで1枚、裏表で、大体A3を2枚使いますから、 $4 \times 4 = 16$ 枚。

○質問者 パワポのスライド風にして。なるほど。

【取扱い厳重注意】

○吉田所長 というぐらいでまとめている資料があって、最初に全体総額見通しみたいなものがあるんですけど、これがデバイスされると、デバイスされた部分が、こういう理由で、この部分のお金が査定したら下がったとか、思ったよりもメーカーがぐずぐず言って高くなったとかいうのを御報告する。

○質問者 例えば、■■■■さんなどは資料をつくる時は、■■■■さんとかにつくらせるみたいなものがあるんですけども、そういう資料は具体的に誰が。

○吉田所長 ■■■■。

○質問者 ■■■■さんですか。当時からずっと。

○吉田所長 ■■■■です。■■■■は耐震センターのGMで、私が平成20年の結構早目だったか、19年だったか忘れちゃったけれども、東電設計にいたのを、耐震センターができるときに引っ張ってきた。何人かしっかりした人がいないとできないんで、くれと言って、無理やり連れてきて、銭から全体調整も全部おまえが総括業務をやれと言ってやらせた。だから、お金も何も彼のところでします。

○質問者 予算の動きとかも非常によくわかっておいでで、やはり■■■■さんなんだ。わかりました。ありがとうございます。

そうしましたら、ちょうど平成20年が終わりました。そういう話があって、今、伺った社長や会長にも、中越沖地震対策会議のお金の話の文脈で、別途計上の話という中で、口頭説明として、12月18日に接する直後のころの、もしかしたら、ちょっと入っているかもしれませんけれども。

○吉田所長 ちょっとタイミングがあれですけども。

○質問者 そのころには、そういった説明もされていたということでございますね。わかりました。

そうしたら、今、12時半ですので、ここで昼食ということで。ありがとうございました。

(休憩)

○質問者 午前中は平成20年12月のところまでお話を伺いましたので、それ以降のことについて、引き続きお伺いしていきます。よろしくお願いします。

それ以降なんですけれども、今度は保安院との関係になってくるんですが、御案内のとおり、平成20年7月21日に保安院から出ました1F5の中間報告に対する評価、これが代表例ということで出ていますけれども、それに先立つ6月とか、7月とか、保安院の合同ワーキンググループでこれについての議論がいろいろされていたんですけども、その際に。

○吉田所長 うちから出したのはたしか3月ぐらいですね。

○質問者 そうです。3月。

○吉田所長 それで評価していただいた。

【取扱い厳重注意】

○質問者 保安院で合同ワーキンググループが6月と7月に開かれていまして、その中で、岡村委員から、貞観地震津波について、大丈夫なのかという指摘が出ているんですけども、この動き自体については、所長、認識等していますか。

○吉田所長 していますよ。私自身はこの委員会に出ていなくて、■■■■とか、あの辺が御説明に行っていたと思うんです。

○質問者 実際、お答えをしていらっしゃるのが■■■■さん。

○吉田所長 地震動は■■■■ですね。

○質問者 その地震動の関係で、当然、貞観というのは津波だけではありませんので、地震の話もされて、それにつなげる形で津波の指摘もされているんですけども、そのときのことについて、どんなことを覚えておいででしょうか。

○吉田所長 ここは、まず整理して言いますと、福島第一については、結局、我々からすると、東芝、日立の解析屋が柏崎の7基の解析で目一杯だったです。当然のことながら、福島第一のSsの地震動は並行して平成20年からいろいろ調査をしてきたんですけども、地震動の形は何とかできたけれども、結局、それを適用して、建屋全体を揺すって解析して、どこが弱いから、ここを強化していきましょうだとか、そういう評価が全然マンパワー的にできる状態にないという状況でした。それで、まずどうしたかという、代表例として福島第二の4号機と福島第一の5号機について、全機器ではないけれども、主要な「止める・冷やす・閉じ込める」というところに関わる機器について、新しい地震動を適用しても大丈夫であろうよという報告を3月にした。その審議をここでしていただいていたということですから、私どもも当然ながら、その審議の中で、それが妥当となるかどうかということは注目して見ていたということですから、毎回の委員会の内容については全部報告を聞いております。そういう中で、何回目が出たか覚えていませんけれども、貞観津波の件が議論に上ったことも覚えております。

○質問者 その上った結果、結局どうなったかというのは、どんなふうに覚えていますか。

○吉田所長 私の記憶だけで言いますと、先生方の中でいろんな御意見があって、なおかつ、そのときはまだ津波の評価はしていないですから、まずは今までのプロセスと、地震の議論をちゃんとした後で、随件事象としての津波だけでなく、地すべりだとか、そういうような随件事象を含めてやるというのが、保安院のというか、いろんな審査の手順としては、そういう手順ですから、当然、報告した時点で、津波まで評価するに至っていないというところで報告しているというのが3月の時点の位置づけだと思います。その議論の中で、当然、津波の議論も出てきたとは思いますが、それはまだ報告事項ではなくて、今後、当然、フルパッケージでバックチェックの最終報告に向けて、いろんな知見も含めて入れた形で出さないといけない。これは当然、出す前提で考えていますから、そのときに反映すればいいんだと、こういうふうなことです。

○質問者 なるほど、わかりました。そういう話があったものですから、保安院は、宿題を明確に持たせようという趣旨だったのか、わかりませんが、この中間報告に対す

【取扱い嚴重注意】

る評価の中で、貞観については「なお、現在、研究機関等により、896年貞観の地震に係る津波堆積物や津波の波源等に関する調査研究が行われていることを踏まえ、当院は今後、事業者が津波評価及び地震動評価の観点から、適宜、当該調査研究の成果に応じた適切な対応を取るべきと考える。」という一文が入ったんですけれども、この一文が入ったいきさつなど、例えば、■■■■さんや■■■■さんから報告を受けているとか何か、ございますでしょうか。

○吉田所長 保安院などというのは、大体、自分はあれしないで、先生の意見だとかを楯にして、基本的には責任逃れするような役所ですから、こんな文章になっていますよという話で、しょうがないではないかという話ぐらいのことです。

○質問者 土木学会でやってもらったらいいではないかと。

○吉田所長 という話だと思います。

○質問者 わかりました。この話を出したのは、そのあとの話の記憶喚起との関係で出させていただいたんですが、こういった流れで、平成21年6月、7月と来ていた流れを受けてだったと思うんですが、「福島第一、第二地点津波評価 8月7日」、これは■■■■さんや■■■■さんのお話を伺って、これは平成21年8月7日の内容なんですよということで、ペーパーをいただいています、今後の対応の中で「また、貞観の地震・津波について、JNESがクロスチェックを行う予定である。東電の検討状況について、審査官から質問あり（8月5日）、検討中である旨、回答。」これがあったものですから、結局、8月5日に、名倉という審査官から、どうなっているの、今報告をくれというふうに言われたので、報告しなければということで、まずもって土木調査グループが所長のところにこのペーパーを持って相談に上がったというような説明を受けています。何を相談しに行ったかという、こういったことなので、バックチェック方針は、結局、この話を説明することになるんですけれども、例えば、既存でいくよ、何もやらないわけではないよ、土木学会でやってくれていますよという説明をしに行く。試し計算結果については、今、持っているものを説明しようかなということで説明に上がった。そういった説明、相談を受けたという御記憶はありますか。

○吉田所長 このペーパーをそういう対応で見たという記憶はない。全体として、要するに、バックチェックの中で津波の議論が浮かび上がっていて、役所からもそれはちゃんと説明してよという話があったのは覚えていますけれども、ジャスト、このペーパーで、そのタイミングで彼らから聞いたという記憶は今はないですね。

○質問者 わかりました。なぜこのペーパーについて伺う必要があるかという、その後、今度は、保安院に東電サイドから、今、こういう状況でございますという説明を2回しているんです。8月と9月。何で2回になったかというのが、理由がありまして、8月の説明が、こんな内容を説明してきましたという。

○吉田所長 名倉さんね。

○質問者 名倉審査官に説明をしたと、そのときの説明内容を見ますと、何を説明したか

【取扱い嚴重注意】

という、通常の5.7の数字を説明しているんですね。こんなようにやっていますという中で、このときに、貞観の検討とか、どうしているのというふうに、やはり先ほどのペーパーなんですけれども、先方からも貞観という文脈で、ここは結局、伏線がそうなんですけれども、貞観の話で、貞観を聞かれて、貞観とかはともかく、現在の1Fの津波の評価、対策状況としてはこんなものですよという説明をした。

○吉田所長 一般的説明。

○質問者 一般的説明。そのときに、試し計算をやったの、やっているんだったら教えてよというふうな話がされて、結果、試し計算しておりますのでと言って、今度はその数字を持って説明に上がったのが9月という図式になっていまして、この2段階になった理由が、■■■さんも■■■さんもおっしゃるには、さっきのペーパーに戻るんですけれども、8月7日のときに、この試し計算の数値については、先方から明確に教えろと言われたい限り、こちらから、何も聞かれていないのに最初から出す必要はないよということで、このときには所長から御指示があったんで、一般説明をしたところ、教えてほしいと言われたんで、もう一度御相談に上がったら、知りたいと言っているんだったら隠す必要はない、出せということで今度は9月に出したと、こういう流れだったという説明を受けているんですけれども、これ、御記憶は。

○吉田所長 全く記憶にないですね。

○質問者 そうですか。

○吉田所長 要するに、私の認識は、さっきから言っているみたいに、出せばいいんですよ。基本的に私は、情報について言うと、新潟の地震の情報もそうですけれども、すべて、わかっている範囲は公開しなさい。ただ、曖昧なものをやたら出すというのは。ですから、例えば、地震動だとかはつきり調査結果が出ているものはどどん隠していないでというか、ホールドしていないで出しなさい。だけれども、検討途中のもので、海か山かわからないものを出すというのはあれでしょうと、そういうことをまず言っていて、現時点で、このときはどう言ったか覚えていませんよ、だけれども、全体の文脈から言うと、現時点でわかっていることははっきりしなさいよということ言えば、まずはこういう説明をしてきなさいという話になったんだと思います。これは推定です。私がそう言ったかどうか、今は全く記憶がないです。自分はこう言うだろうなということに基づいて今は言っていますけれども、記憶からは全くないです。

○質問者 あり得る話ではあると思います。

○吉田所長 そうです。あると思います。まずは、事実として、今、どんなことをやっているのかをちゃんと示してきなさいという話があって、多分、これも出せという話が出たんだと思うんですけれども、別に隠す話でもないから、これから先、またどう変わるかわからないけれども、現時点ではこうだというのは出してきなさいという話にしたかもわかりません。いずれにしても、そんな文脈だと思いますよ。

○質問者 わかりました。このときに、8月7日のペーパー等で書いてあるのは、とりあ

【取扱い厳重注意】

えず現状ですということで、こんな状況で学識経験者に、貞観津波についてはこうだから、今回の耐震バックチェックで扱わずに、津波堆積物調査とかをやって、あとは電力共通研究で土木学会で検討してもらいますという予定であることを説明する云々かんぬんと書いてありまして、質問があったので、保安院にはちゃんと説明しようと思います、現在の状況でございますというふうな内容で、そういうふうなことを■■■■や■■■■が言っているんだったら、それはそれとしてあり得る話だろうということでもよろしゅうございますか。

○吉田所長 はい。

○質問者 わかりました。この辺の御記憶は余りないんですね。わかりました。例えば、1回目の説明に行ってきたら、こうでしたというふうな報告を。

○吉田所長 いえ、全く記憶ないです。これに関しては、その時点で。

○質問者 例えば、この段階では、初めて内部から外向けに説明するという場なんですけれども、保安院の反応はどうかという。

○吉田所長 というより、私の記憶があればわからないんですけども、いずれにしても、この辺で委員会でも貞観津波の話は出ているわけですから、委員会でも。当然のことながら、貞観津波に対する説明をそれなりに保安院さんにしておくというのは、その以降、やっていると思っていますから、そのやっている中の一環として、どのタイミングでどう言ったか、言い方は別にしまして、我々の検討している内容を御説明しているということでは覚えていませんから、情報を出さなかったとか、出したとかいう話は全くなくて、委員会等々の指摘に応じて、今、我々がわかっていることを御説明したという話だと思っています。

○質問者 そういうことなので、特に反応に関心はないということですね。

○吉田所長 全くないですね。

○質問者 わかりました。

○吉田所長 大体、自分たちで考えないやつらですから。

○質問者 そうですね。わかりました。あと、8月のときには、どうやら名倉審査官だけが対応したようで、9月のときには小林室長も、本人はおれは出ていないと思うとか言っているんですけども、それは置いておきまして、その時の9月の説明で、こういったコーナー図と波形。

○吉田所長 これは私は見ていない。

○質問者 ああ、そうですか。

○吉田所長 見たのかもわからないけれども、ちらっと見て、ああ、そうと言ったぐらいの話であって、そんなに意識の中に残っていないです。

○質問者 初めての情報ではないということですね。

○吉田所長 ないですから。説明しておくなら説明しておけ、全部説明してこい、面倒くさい、こういう話です。文脈から言うと、私の言い方としては、多分。

○質問者 わかりました。これも説明したときの先方の反応とかも特段。